



N-BLOOD
NISMO Communication Magazine

NISMO Communication Magazine **N-BLOOD** 2024 / October No.104 Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd.



SAMPLE

N-BLOOD

NISMO Communication Magazine
2024 / October
No. **104**

nismo

Produced by Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd

今までも、これからも

日産のモータースポーツブランドとして誕生した「NISMO」は
2024年9月17日に40周年を迎えました
長年、世界各地のフィールドで手強いライバルと鎬を削り
最前線でしか得られないノウハウを、様々な製品やコンプリートカーに
フィードバックし続けてきました
時代が移り変わり、走るクルマが変わっても
その根底に流れるワクワクと情熱、楽しさは今も変わりません
長年支えてくださったファンの皆さんへの感謝とともに
日産/NISMOは、新たな時代へと踏み出します

40
SAMPLE
nismo
40th ANNIVERSARY



40 nismo
40th ANNIVERSARY

nismo



- 4 **NISMO 40th ANNIVERSARY RECEPTION**
NISMO 40周年記念式典を実施
- 6 **2024 SUPER GT SERIES GT500 CLASS**
酷暑のレースで
12号車が5位入賞
- 8 **2024 SUPER GT SERIES GT300 CLASS**
終盤まで僅差の2位争い
56号車が3位表彰台に
- 10 **CUSTOMER'S INTERVIEW**
最前線からの直言 福山英朗／平井成治
- 12 **GT WORLD CHALLENGE ASIA**
多くのエントラントを集める
GTワールドチャレンジ・アジアの魅力
- 14 **2024 SUPER TAIKYU SERIES**
第4戦もてぎで日産勢が
歓喜の3クラス制覇
- 16 **2024 PIRELLI GT4 AMERICA**
激戦のシリーズで健闘光る
NISSAN Z NISMO GT4が表彰台の常連に
- 18 **FIA Formula E World Championship Season10**
佳境を迎えた2024年シーズン
最終戦でローランドが殊勲の2勝目
- 20 **40th ANNIVERSARY**
NISMOブランド40周年記念企画
知られざるNISMO ～その3
- 24 **NISMO LEGEND CARS**
ダットサン・ブルーバード (P510)
悲願のサファリラリー初制覇&上位独占
- 26 **TAMIYA PLAMODEL FACTORY TOKYO**
タミヤの聖地がリニューアルオープン
- 28 **MOTORSPORTS**
PADDOCK TOPICS
- 30 **NISMO FESTIVAL in FUJI SPEEDWAY 2024**
会員限定イベントを今年も多数設定！
- 34 **NISMO PRODUCT**
NISMOブランド40周年記念商品
初代ロゴをあしらったアイテムを発表
- 36 **Club NISMO EVENT REPORT**
「第5回レースカーと愛車の撮影会」を開催
- 38 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
日産の名車を様々なスタイルで楽しむ
- 39 **PRESENT**
読者プレゼント

NISMO 40th ANNIVERSARY RECEPTION

NISMO 40周年記念式典を実施

これまでを振り返り
未来に向けて新たなステップを踏み出す

2024年9月17日——NISMOブランド誕生からちょうど40年という歴史的な日に
ドライバーや関係者を招いて行われたレセプション
先達が築き上げてきた過去と現在、そして未来に思いを馳せるイベントとなりました

フォトセッションでは、
内田CEO、イヴァン・
エスピノーサSVP、片
桐CEOを中心に、トー
クショーに出席したメ
ンバーが並びました。

WEC in ジャパンの思
い出を語る星野総監督。
「僕ひとりで走ったのに
(3人で登録していたた
め) 賞金は3分の1」と
周囲を笑わせます。



スーパー耐久未来機構の豊田章男理事長は、ご挨拶で「S耐はN1耐久の頃から日産/NISMOさんに支えていただいた」と語りました。



トークショーでは関連した写真がバックスクリーンに映し出されました。写真は82年の「マーチ・スーパーシルエット」。



TEAM IMPULの星野一樹監督やNISMO契約ドライバーたち。サーキットとは違うリラックスした表情でパーティを楽しみました。



会場にはトロフィーやヘルメットなどのほか、大小様々なミニカーやグッズ、NISMO事業所の社屋ジオラマも展示。

創業当初から続く
情熱と革新の軌跡

日産自動車 / 日産モータースポーツ & カスタマイズ (NMC) は9月17日、日産グローバル本社ギャラリーにおいてNISMOブランドの誕生40周年を祝う式典を開催しました。

壇上には、今季のSUPER GT GT500クラスを戦う#23 MOUL AUTECH ZとフォーミュラE世界選手権シーズン10に出場したNISSAN e-4ORCE 04が並び、フロアにはNISMOの歴史を彩るレースカーや、NISMOが送り出したコンプリートカーが展示されました。また、ニッサン・モータースポーツ・インターナショナル株式会社二代目社長の安達二郎氏、三代目社長の佐々木健一氏、五代目社長の宮谷正一氏のほか、北野元氏をはじめとするレジェンドドライバーや現役ドライバーも多数出席し、レセプションがスタートしました。

最初に登壇した日産自動車の内田誠CEOは「今日、9月17日、日産のモータースポーツ活動を象徴するNISMOブランドの誕生から40周年を迎えました。日産は創業当初から『他のやらぬことを、やる』という精神で、モータースポ-

ーツへ挑戦してきました。そのDNAを体現するNISMOはこの40年間、技術を鍛え、多くのファンやお客様の心を動かしてきました。私たちは今後もレースを通して、エキサイトメントを追求していきます。

NISMOがここまで成長できたのは、チームのスタッフやドライバー、そして長年にわたり支えてくださるファンの皆様の力があってこそです。今後も皆さまと喜びを分かち合い、笑顔の輪を広げたいと思っています。よりワクワクに満ちた次の10年、そしてその先の未来を、皆さまとともに切り開いていきたいと思っています」と挨拶しました。

続いて大型バックスクリーンでは、“情熱と革新の軌跡”をテーマとした40周年記念ムービーを上映。サーキットやラリー、そして最新のフォーミュラEまで、長年にわたって世界各国の様々なフィールドで躍動してきた日産車の名シーンが蘇りました。

NMCの片桐隆夫CEOは、「NISMOは今日まで40年にわたって、日産の創業当初から続くモータースポーツの歴史を受け継ぎ、様々なカテゴリーにおけるモータースポーツ活動やコンプリートカーおよび部品の企画開発を通じて、ブラ



片桐CEOは、欧州をはじめ北米や中東などの海外展開についてもコメント。グローバルブランドとしてのさらなる成長を誓いました。

ンドの価値向上に貢献してまいりました。

そうした取り組みの成果として、国内外の様々なトップカテゴリーにおいて、チャンピオンや表彰台の獲得など、歴史を刻むことができました。究極のエキサイトメントを象徴するNISMOは、50周年に向けて、この先も1年1年、レースでの勝利を求めて全力でモータースポーツ活動に取り組み、レースからのフィードバックを織り込んだ魅力的なロードカーを開発して世界中のお客様にお届けすることで、日産をより好きになっていただけるよう、一丸となって取り組んでまいります」と力強く宣言し、会場は大きな拍手に包まれました。

NISMOの過去と未来
そしてDNAを感じさせるトークショー

その後ステージでは、長谷見昌弘NISMO名誉顧問、TEAM IMPUL 星野一義総監督、KONDO Racing 近藤真彦監督、千代勝正選手、高星明誠選手、日産フォーミュラEチームの西川直志エンジニアが登場し、NISMO40周年トークショーが行われました。NISMO誕生以前から日産のモータースポーツと深いかかわりがある長谷見氏からはNISMOの強さの秘訣、星野総監督からは創業間もない85年に参戦した世界耐久選手権“WEC in ジャパン”の参戦エピソード、近藤監督からはNISMOとレースを始めた頃の話やル・マン24時間での思い出が語られました。

また、ニッサン・ドライバー・デベロップメント・プログラム (NDPP) 出身でNISMO契約ドライバーである千代選手と高星選手は、NISMOの先輩ドライバーから多くを学び、キャリアを積み重ねてきたことへの思いや責任感について、それぞれコメント。これに対して、3名のレジェンドドライバーから、現役ドライバーのふたりにエールが送られました。

トークショー最後の話題は2024年3月に開

催されたフォーミュラE東京大会、そして電気自動車へ。西川エンジニアは「東京大会でのファンの応援には本当に感動しました。声援はガレージの中にまで聞こえるほどで、チームの皆に活力を与えてくれました。それが良い結果につながったのだと思います。やはりレースでの好成績がNISMOブランドにとってなによりの貢献だと思っています。加えて、12月から走り始めるGEN3 Evoには日産/NISMOの技術が深く盛り込まれたパワートレインが搭載されることもあり、“Track to Road, Road to Track”の取り組みがさらに加速していきます」と語りました。電動パフォーマンスを高め、ロードカーでもレースでもより良いクルマを送り出すことが、ブランド価値を高めると同時にファンの期待に応えることにつながるとしています。

また、話題はフォーミュラEから、星野総監

督と近藤監督が最近手に入れたアリアNISMOについて移っていきます。星野総監督は「アリアNISMOは加速が良くて、速く走ってくれる。速度は言えないですけど(笑)」と笑いを誘い、近藤監督は「星野総監督に薦められて乗っていますが、僕も気に入っています。なにしろ格好いいですし、信号で止まると、GT-Rより隣の人から見られますね。それだけ目立つのだと思います」と語りました。

このトークショーにて、レセプション第一部は終了、第二部は日産グローバル本社ギャラリーで立食形式での懇親会が行われ、華やかな雰囲気の中、昔話に花が咲きました。



日産の究極のハイパフォーマンス
ブランド“NISMO”
NISMO40周年記念ムービーは
こちらでチェック

「NISMO」の40年にわたる様々な活動と歴史をまとめた
「NISMO: 40 years of People, Passion, and Performance」はこちらでチェック



Part 1
Motorsports



Part 2
NISMO Products



Part 3
Brand evolution and
journey with fans

2024 SUPER GT SERIES GT500 CLASS

Z勢は12号車の5位が最上位。平峰は「公式練習でのペースは悪くなかったのですが、ライバルが強かった。次に向けて準備します」と悔しさを語った。

シーズン中盤 酷暑のレースで 12号車が5位入賞

3号車はランキング3位に

過酷な夏の戦いに突入した2024年シーズン
NISSAN Z NISMO GT500は厳しい戦いを強いられつつも
各チームの粘り強い取り組みによって
後半戦での上昇気流を捉えようとしている

ランキング2位で第4戦富士を迎えた3号車。60kgと
なっていたサクセスウェイトは、燃料流量リストラク
ターを一段階絞ることで
17kg軽減されることになっ
たが、それでも予選での影
響は大きく、上位進出は叶
わなかった。

ストリクターが1段階小さくなっており、走行
に影響することも予想された。

8月3日の公式予選は、気温33度/路面温度
55度という暑さのなかスタート。#12 Zの平峰
は1分28秒316で4番手、#24 Zの松田も1
分28秒517で8番手につける。一方、#23 Z
のクインタレリは1分28秒694で11番手、
#3 Zの高星は燃料流量リストラクターの影響も
あり1分28秒881で13番手となった。

Q2では、#24 Zの名取が1分28秒612を
記録し、Z勢の最上位につける。バケットがア
タックした#12 Zは1分28秒782で8番手、
#3 Zの三宅は1分28秒831で9番手、#23
Zの千代は1分28秒943で11番手につけて
予選を終えた。合算タイムでは#12 Zが6番手、
#24 Zが7番手、#23 Zが11番手、#3 Zは
12番手となった。

翌8月4日の決勝レースも、午後2時30分、

気温35度/路面温度56度という酷暑のなかで
始まった。レース序盤、#12 Zのバケットがア
グレッシブなオーバーテイクをみせ一時は5番
手に浮上するが、13周目に1ポジションダウン
して6番手。一方、#24 Zは8番手、#23 Z
は12番手でレースを進めた。#3 Zは、オー
プニングラップで15番手に順位を落とすと、その
後は燃料流量リストラクターのハンデの影響も
あり、なかなか挽回することができずにいた。

第4戦はレース距離が350kmとなっているこ
とで、あまり早めの段階でピットインするとレー
ス後半の燃料残量が厳しくなってしまう。一方で、
ピットのタイミングを引き延ばすとピット作業後
にライバルの先行を許してしまう恐れがあり、各
チームとも慎重に戦略を練っていた。

燃料流量リストラクターのハンデを燃費のメ
リットと捉えて走る#3 Zは、29周を終えた時
点でピットイン。31周目には#24 Zが、翌周



23号車も46kgのサクセスウェイトを積んでのレースとなり、思うようにペースを上げられず。トラ
ブルなく完走を果たしたが厳しい結果となり、後半戦での挽回を目指す。



予選でグリッド7番手を得た24号車だったが、決勝では痛恨のトラブルでポジションダウンを余儀な
くされた。第4戦富士は、日産/NISMO陣営にとって厳しい内容のレースとなってしまった。

Round 4 FUJI GT 350km RACE

今季2戦目の富士で12号車が5位

GT500 Class (77Laps)				
8月4日 富士スピードウェイ 天候：晴れ コンディション：ドライ ファステストラップ：1'30.102 #19 WedsSport ADVAN GR Supra 坂口晴南				
Pos	No	Machine/Drivers	Time / Behind	
1	8	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT #8 野尻智紀/松下信治	2:00'43.329	
2	100	STANLEY CIVIC TYPE R-GT 山本尚貴/牧野任祐	3.277	
3	38	KeePer CERUMO GR Supra 石浦宏明/大湯都史樹	12.233	
5	12	MARELLI IMPUL Z 平峰一貴/ベルトラン・バケット	18.894	
12	3	Niterra MOTUL Z 高星明誠/三宅淳詞	58.205	
13	23	MOTUL AUTECH Z 千代勝正/ロニー・クインタレリ	58.233	
14	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z 松田次生/名取鉄平	1 Lap	

には#23 Zがピットに入る。GT500 クラスの
全車が作業を終えると、35周でピットに入った
#12 Zはひとつポジションを下げて7番手に。
#24 Zは8番手につけ、#3 Zは 早めのピッ
インが功を奏して12番手に浮上。#23 は14番
手となった。

#12 Zは49周目、68周目にオーバーテイク
をみせ、5位でフィニッシュ。一方#24 Zは毎
周のように順位が入れ替わる激しい戦いをみせる
も、62周目にトラブルを抱えて後退し、結果は
14位。 #3 Zは12位、#23 Zは13位でレー
スを終えた。Z勢は入賞が1台と、厳しいレー
スウィークとなった。

台風の影響で第5戦鈴鹿が延期 規定変更は第6戦SUGOから適用に

そんな状況を打破すべく、8月31日～9月1
日の第5戦鈴鹿に向けて準備を進めていた日産/
NISMO 陣営だったが、日本列島に大きな影響を
及ぼした台風10号による来場者/関係者の安全
および、その後予想される公共交通機関への影響
などを考慮した結果、大会直前に延期が発表され
た。代替日程は12月7日～8日。例年、真夏
の一戦としておなじみの大会だけに、これまで経
験がない季節の鈴鹿、しかもサクセスウェイトな

12号車、23年第3戦鈴鹿以来の表彰台を獲得

9月21日(土)～22日(日)にスポーツランド
SUGOで行われた第6戦は、荒天のなかでの一戦
となった。予選日は朝から雨となり、公式練習では
赤旗が続出。予選キャンセルになる可能性を見据え
て各車アタック、#12 Zが5番手、#24 Zが7番手、
#23 Zは9番手、#3 Zは15番手となった。予選
は行われず、公式練習のベストラップ順にグリッド
が決定された。決勝日も雨が強く、レース開催が不
安視されたが、約1時間遅れでスタート。路面コン
ディションが回復していく難しい状況下、アグレ
ッシブなレースで#12 Zが3位表彰台を獲得。
追いつけた#3 Zが6位に。#23 Zは12位、#24
Zは13位でレースを終えた。



#12 Zは前半をバケット、後半を平峰が担当した。「久々の表彰台で流れが変わるといいと思っています」と平峰。

しでのレースはどのような展開となるのか、予想
もつかない最終戦となりそうだ。

なお、SUPER GTはCO2排出量50%削減
を目指す環境対応ロードマップを22年に示し
ており、23～24年にはカーボンニュートラル
フューエルの導入や持ち込みタイヤセット数の削
減などに取り組んできたが、24年からは公式予
選でのタイヤ1セットの使用、合算方式などの
新規則が導入されている。さらに、関係各所か

らの様々な意見をもとに、公式予選Q1、Q2で
ニュータイヤが使用可能になる新たな規則、さら
にGT300クラスのQ1方式などが変更された。
GT500クラスでは、今季第1戦～第3戦の末勝
利タイヤメーカーが供給するチームが、持ち込み
を2セット追加できることになった。
これらの変更は第5戦鈴鹿が延期となったこ
とで、第6戦スポーツランドSUGOから導入さ
れる。